

# こま参道

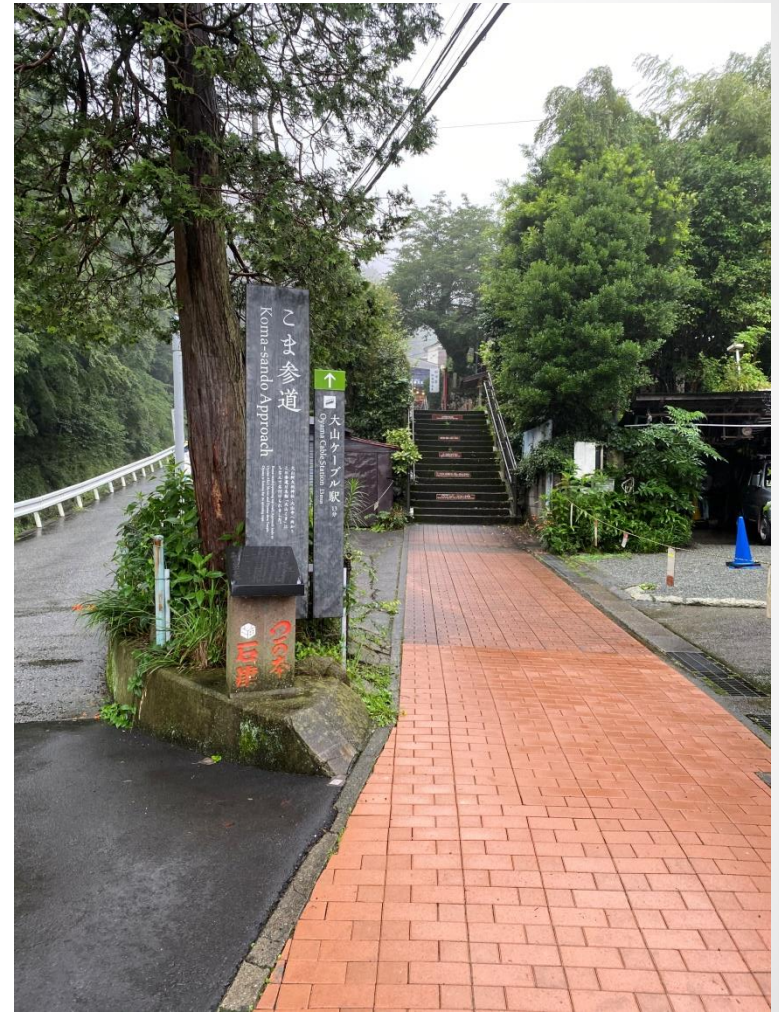
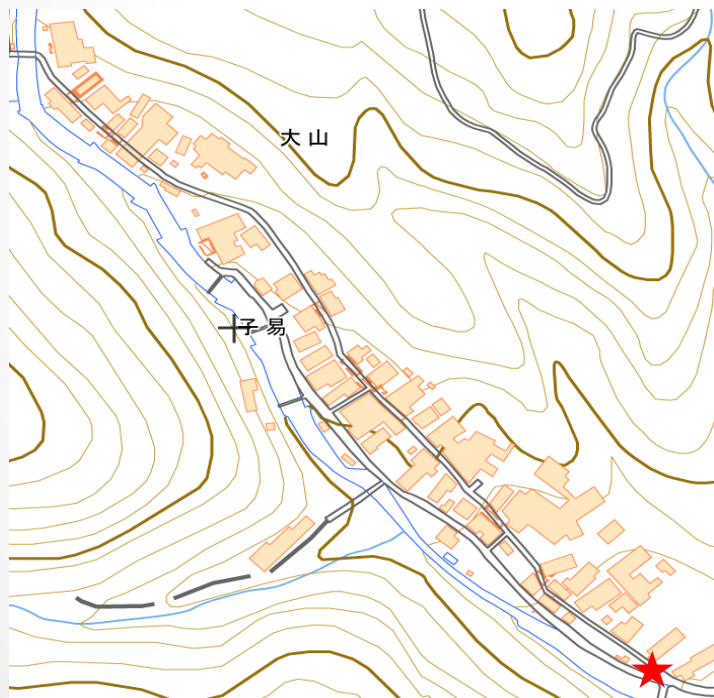
## 商店街と傾斜

18n1083 田中優太



# こま参道の入り口

こま参道は階段と踊り場の連続。  
ここからこま参道の階段を上って  
いく。



# 研究テーマ

こま参道は山にある商店街のため、傾斜が急である。坂道は傾斜による身体的負担がかかるため歩行には不便であるが、眺望や情景の変化、坂の前方への期待感など言葉には言い表せない魅力を表す空間といえる



こま参道は、店舗内に歩行者を誘引すべくどのような空間形態が表れているのか調査する

# 研究方法

こま参道にある店舗をいくつかピックアップし、

**店先陳列型**・・・店先に商品が陳列してある空間形態

**店内誘引型**・・・平地の商店街のような、店内にくつろぐ場所  
が設置してある空間形態

**寄り道型**・・・一直線だった商店街から道が分岐し、店舗への  
道がある空間形態

の3つの形態に分類していく

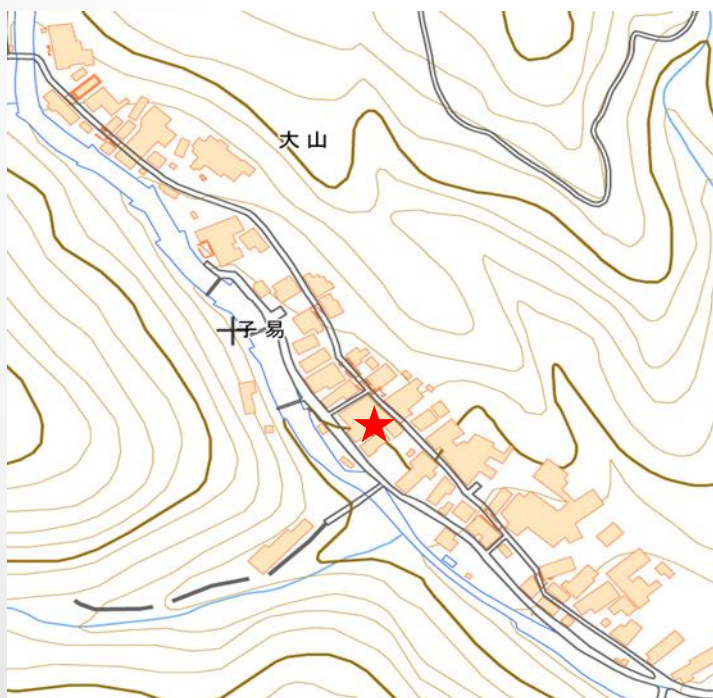
# 金子屋商店 (店先陳列型)

お土産屋。大山の伝統品、大山こまが沢山並んでいる。階段を上った先に商品の陳列が見え、上ってきた歩行者への視覚的な誘引が見られる。



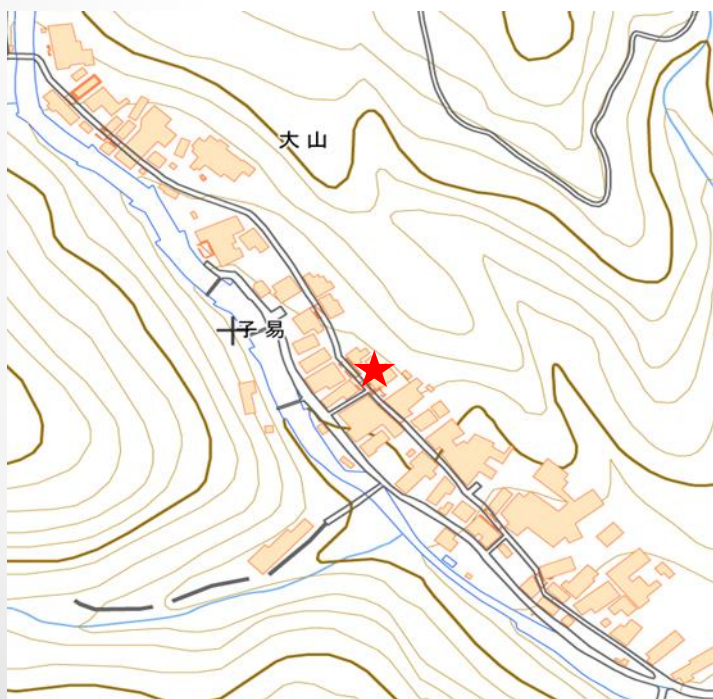
# 西の茶屋 (店内誘引型)

(お豆腐のコース料理あり) テラス席がある。川沿いでトロロそばなどを食べることができる。ここは傾斜が小さいため、奥に休憩場所が設置されており店舗前の商品の陳列が少ないなど、平地の商店街に近い空間形態が見られた。



# 大山ウルワシ本舗 (店先陳列型)

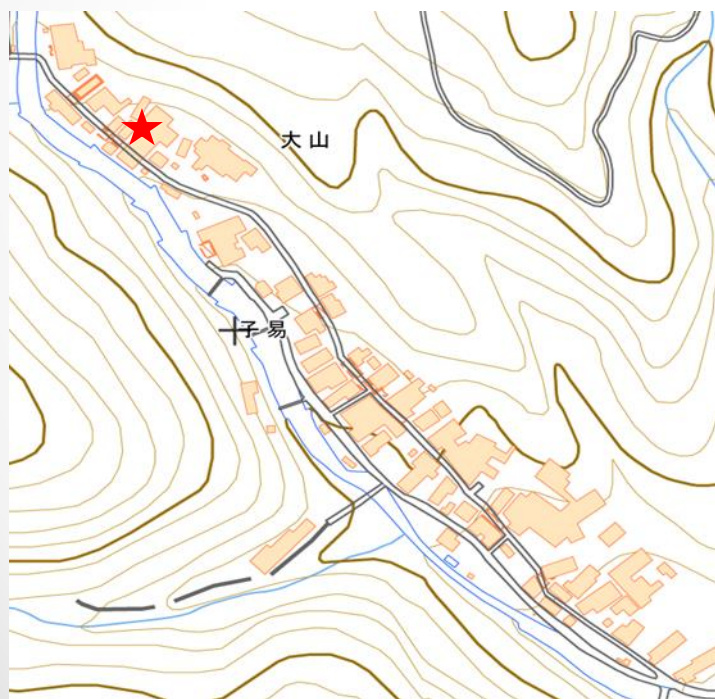
(こんにやく・土産物屋) こんにやくのお店。イートインもある。辛みこんにやくは辛みが良く染みた旨いこんにやくで、あっという間になくなる。店舗先に商品を陳列することで、歩行者が坂道を移動する際に享受する視覚的变化という心理的影響を狙った空間構成と考えられる。





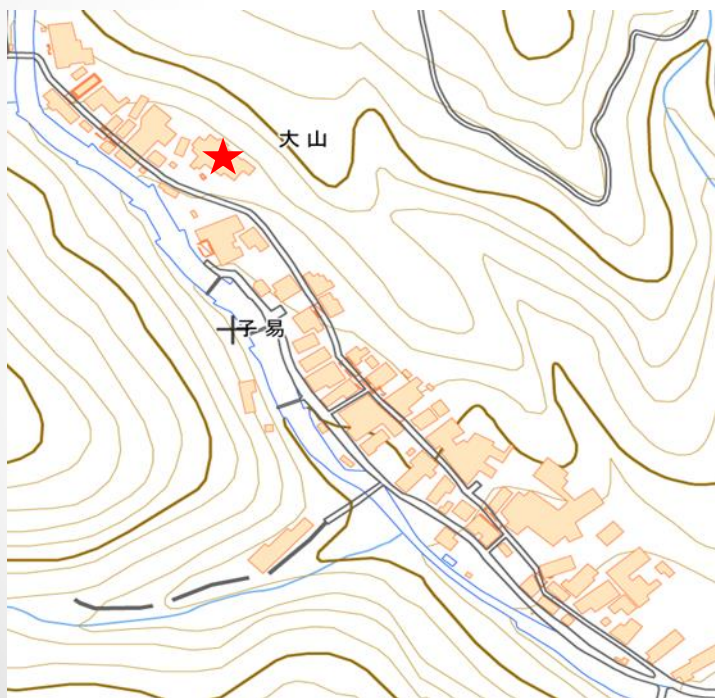
# るびすや土産店 (店先陳列型)

(とろろめし定食 1,000円など) ねぎし旅館を過ぎてすぐにある。土産物屋だが、食事をする場所も綺麗。店先の開放的な踊り場を利用し店外にも商品を陳列することで、大山ウルワシ本舗にもみられた歩行者への視覚的変化の心理的影響だけでなく、前面道路の傾斜と店舗敷地内のレベル差を解消するための物理的影響も狙った工夫が見られた。



# 山の宿ねぎし（旅館ねぎし） （寄り道型）

（お豆腐会席1,700円など）小川家を過ぎてすぐのこちらのお店も、歴史を感じさせる趣ある石段と門構え。高低差を利用し、階段を上らなければ中の子易がわからない歩行者の興味を引くとともに、一直線だった商店街から少し外れて寄り道をさせるという坂道空間の進行方向の期待感を抱かせることに成功している。



# 研究結果

調べた結果、**店先陳列方**の形態を持つ店が多く、店舗先の商品の陳列はイメージ向上を意識した働きが表出しやすいことが分かった。傾斜のある商店街は歩く人々にとって、上るときは路面や店舗足元部分などが視界に入りやすく、下るときは沿道店舗が視覚的に広く見えるなど、平坦地の商店街に比べ、坂道の商店街は沿道の細部や全体に視線が向きやすくなる。また、店舗先の商品の陳列によって、店舗前面の傾斜地と店舗敷地内のレベル差を解消している効果も見受けられた。



# まとめ

傾斜のある商店街では、店先の商品の陳列によって、歩行者が坂道を移動する際に享受する視覚的変化の心理的影響と、店舗前の道路の傾斜と店舗敷地内のレベル差を解消する物理的影響があると考えられた。平地の商店街からでは考えられにくい発見があり、興味深い研究とすることができた。

# 参考文献

じゃらん (<https://www.jalan.net/travel-journal/000064752/>)

国土地理院

(<https://maps.gsi.go.jp/#11/35.350976/139.283638/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>)

グーグルマップ (<https://www.google.co.jp/maps/?hl=ja>)